

# 大好き！絵本

初瀬 恵美



『かぶとむしの  
ぶんぶんちゃん  
うまれたよ』  
作：ねもとまゆみ  
絵：たけがみたえ  
出版社：童心社

保育園のカブトリウムの中のカブトムシが毎日、数匹ずつ羽化してきています。都会だけでなく自然が残る河内でも、野性のカブトムシがめずらしくなってきた中で、身近にカブトムシを感じることができるのは、とても嬉しいことです。カブトムシの幼虫が、土の中でどんな変化をしているのか、なぜ春から初夏にかけては土を触ってはいけないのかを、子どもたちに伝える一つとして、保育室に置いていた『かぶとむしの ぶんぶんちゃん 生まれたよ！』を今月は紹介したいと思います。

この絵本は、カブトムシの一生のお話です。暑い夏の日、だけど涼しい土の中生れたばかりの**ぶんぶんちゃん**から物語がスタートします。土をたくさん食べて脱皮をして、ぶんぶんちゃんは大きくなっていきます。途中で**つのつ**というお友達もできました。やがて、初夏になり大人の身体になる準備を始めます。体をくねくねさせて、自分の部屋をつくるのです。それから皮を脱いで蛹になり、じっとしていると、つのつのは、頭につのがのびてきました。ぶんぶんちゃんにはつのがありません。やがて、2匹は大人になり、再び出会い、新たな命を育むお話です。

次女が小学一年生のとき、友達から、つがいのカブトムシをもらいました。大切に大切に育てて「かぶくんとかぶちゃん」と名前をつけていました。ある日、「かぶくんと、かぶくんのパパと、かぶじいちゃんが空を飛んでいるところ♪」と描き私にみせてくれました。それは楽しそうに親子3代の3匹が森の中を飛んでいる絵でした。

しかし、夏の半ばに時期は少しずれましたが2匹とも死んでしまったのです。その時の悲しみはとても深いものでした。もう2度と動いてくれないカブトムシ。そして、自分が描いた絵のように、お父さんやおじいちゃんと空を飛べることはないんだ・・・という現実。(そのときは、カブトムシの寿命が1年と短く、しかも成虫になるまでのほとんどを土の中で過ごすということを知りませんでした。)悲しみにくれる次女にお友達がずーっと寄り添って慰めてくれていました。その時、一人の子が「カブトムシ、交尾してたから、卵産んどるかもよ。」とってくれました。その言葉に望みをかけるように、「どうか、卵を産んでいますように」と祈ることに気持ちが切り替わり、死からのショックから立ち直っていきました。そして、祈りが届いたようで、しばらくすると、土の中に小さな小さな幼虫を見つけることができたのです。そこからまた飼育が始まりました！今度は卵からの飼育。飼育ケースに黒い画用紙を貼っておいたら翌年の初夏に側面で蛹室をつくる幼虫がいて、幸いにも羽化までの姿をみることができました。成虫になったかぶくんと、かぶちゃんの子ども達は、大空を沢山飛ぶことができるようにと、自然へと返してあげました。もう15年以上も前の話です。

こんな風に、カブトムシの一生を私たち親子は知りましたが、カブトリウムで飼育していると、さすがに蛹室や羽化する姿はみえません。(数匹でも飼育ケースで育ててみるとよかったのですが...)なので、物語性のある絵本を5月頃から置いておいたのです。土の中の様子は見えませんが、幼虫見たさに土を掘ってしまうと、せっかく大人になるための準備をするためにつくった部屋(蛹室)が壊れてしまうので、土を掘らないでね・・・と伝えるために。

今年は、沢山羽化しているので、欲しい園児のみなさんにお分けしたいと思います。ご希望の方は、飼育ケースに昆虫マット等を入れて、名前を書いて持ってきてくださいね。ぜひ、カブトムシの一生を実際にご家庭で、お子さんとご一緒に、ご覧になられてみてください。



## 誕生日おめでとう

